けいおん！～ＩＦ～

不死鳥の羽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
けいおん！～ＩＦ～

【Ｎコード】
Ｎ２３６４Ｋ

【作者名】
不死鳥の羽

【あらすじ】
もし唯達が通う桜が丘高校が共学になったらというＩＦストーリーです。オリキャラ含みます

1話・入学！（前書き）

はじめまして不死鳥の羽といいます。

小説を書くのは初めてなので少し緊張してます…

いろいろ間違い等があればご指摘願います

それではどうぞ！

1話・入学！

「入学式か……」

俺の名前は春御（はるみ）　才次（さいじ）。
趣味はギター、好物は甘い物、血液型はＡＢ型
今日から桜が丘高校に通う事になった。

俺がこの高校を選んだ理由はただ一つ、昨年までは女子校だった桜が丘にはカワイイ女子が沢山いるから…というどこぞの馬鹿が考えそうなしょーもない理由ではなく、単に近いからだけである。

俺は訳ありで一人暮らしをしている。
一人暮らしという事は、たった一人で生計を立てていかなければならなく、毎日バスや電車等で登校してたらバス代やら切符代が馬鹿にならないので、徒歩で通学できるこの学校にしたのである。
まあこの理由も充分しょーもないんだが…（多分）。

今日は入学式があるので、只今、学校に向かってる途中である。
正直入学式なんてダルいだけであり、貴重な一日の一部をほとんど何もしない時間で埋めてしｍ「お～い、はるみちゃ～～ん！」
来ましたよどこぞの馬鹿が！
この馬鹿の名前は河切（かわきり）　荒貴（あらき）。中学の時の同級生だ。コイツも桜が丘に通う事になっている。

因みにコイツが先程言った、入学の理由が『昨年までは女子校（以下略）』というどこぞの馬鹿の正体である。

あと『はるみちゃん』と言うのは、コイツが勝手に考えた俺のアダ名である。

荒貴「おはようさんはるみちゃ～ん！一緒にガッコ行きましょうぜ～」

才次「何ですかアナタは？朝っぱらから人を気色悪いアダ名で呼びやがって…ってかなんでお前と一緒に登校しなきゃいけないんだよ…」

荒貴「いいじゃないか別に。お前の数少ない友達が一緒に登校してあげてるってのにその言いぐさは何だい？」

才次「数少ないは余計だから。なんで朝からこんな迷惑な奴に会っちまうんだ…」

荒貴「あらら迷惑でごめんなさいね♪あ、お前部活何入るか決めたのかい？」

才次「ああ、一応軽音部に入ろうとは思ってっけど…」

荒貴「中学の時と同じだな。まあお前なら当然か…」

才次「まあな。そう言うお前は部活何入るか決まってんのか？」

荒貴「そうだな～やっぱりカワイイ娘が沢山いる部活が……って、登校時間って何時までだっけ？今何時だよ？」

才次「８時半からだけど…って今２０分じゃん！お前が無駄な事喋ってるからだぞ！」

荒貴「俺のせい！？なんて言ってる場合じゃない！急ぐぞ！」

こんな具合に俺の高校生活は始まった…

1話・入学！（後書き）

いかがでしたか？

まだ力量不足な所があるかと思いますが、これからよろしくお願いします

それでは次話で…

2話・部活！（前書き）

こんにちは

更新は一週間に一度が目安です

一話一話は短いかもしれませが何卒ご容赦願います

それではどうぞ♪

2話・部活！

―ある日の休み時間―

「澪ーーっ！」

ある少女の元気な声が廊下に響く

澪「あ、律どうしたの？」

その少女の声に綺麗な黒髪長髪の女子が振り向く

律「クラブ見学行こうぜっ！軽音部の！」

澪「あ、ごめん私は文芸部に…」

律「えっ？」

澪「入部希望の紙も書いちゃったし…」

律「……」

ビリッと紙を破いた音が響く

澪「あーっ！なにすんだよ律！」

律「ほら行くぞ！はやくはやく～♪」

澪「ちょっ、待って私は…」

先程の元気な女子の名前は田井中（たいなか）　律（りつ）。桜が丘高に通う生徒である。
黒髪長髪の女子の名前は秋山（あきやま）　澪（みお）。田井中律とは幼なじみであり、
彼女も桜が丘高の生徒である。

――――――――――――――――――――

平沢（ひらさわ）　唯（ゆい）は考えていた。今、手元にある入部届にどの部活名を書くかを……。

唯「部活に入ろうとは思ったものの…何に入ろっかなぁ…？」

彼女は高校に入ってから何かを始めたいと考えている。しかし、未だにどの部活に入ろうか迷っている

唯「うーん…」

「なに唸ってるのよ唯」

唯「あっ、和ちゃん！実はどの部活に入ろうか迷ってて…」

和「えっ！？まだ決めて無かったの！？学校始まってから2週間も経ってるよ？」

唯「でも私、運動音痴だし、文化系の部もよく分からないし…」

和「はあ…こうやってニートが出来上がっていくのね…」

唯「部活していないだけでニート！？」

和「はあ…外の掲示板に部活の勧誘の紙がいくつか貼ってあると思うから見てみたら？」

唯「そうだね！ありがとう和ちゃん！」

和「まったく…」

――――――――――――――――――――

律「えっ？廃部？」

予想外の言葉に律は驚く

先生「正確には廃部寸前ね…昨年度までいた部員はみんな卒業しちゃって…今月中に４人は入部しないと廃部になっちゃうの」

律「そんなぁ…」

先生「ごめんなさい、これから授業があるから…部員集めがんばってね？」

そう言って先生は教務室を出て行った

律「……」

澪「綺麗な先生だったなー。じゃあ私は文芸部に……っ！？」ムンズ

出て行こうとした澪を律は捕まえる

律「ふふふ…誰もいないって事は今入部すれば私が部長…？ふふっ、悪くないわねー♪」

澪「…え？（嫌な予感…）」

――――――――――――――――

唯「はあ…結局決まらなかったなぁ…」

先程、部活勧誘の紙が貼ってある掲示板を見た唯だったが、結局決まらず、只今は次の授業の教室へ向かっている途中である。そこに休み時間に律と話をしていた先生が唯に話しかける

先生「平沢さんこんにちは。溜め息なんかして何かあったの？」

唯「じつはまだどの部活に入るか迷ってて…」

先生「まだ決めて無かったの？学校始まってから2週間も経ってるけど…」

唯（和ちゃんと同じ事言われた…）

そこで先生は先程、律と話していた会話を思い出す

先生「じゃあ軽音部なんてどうかしら？」

唯「けいおん部？ってなんですか？」

先生「軽い音楽…と書いて軽音よ。どうかしら？」

唯「…軽音部か…」

『軽い音楽』と聞いて唯は昔を思い出す

幼唯『うんったん♪うんったん♪うんったん♪』タンッタンッタンッ

唯の頭の中には、カスタネットを叩く昔の自分の姿が映っていた

唯「…よしっ！」

2話・部活！（後書き）

いかがでしたか？

自分は音楽知識はあまりありませんが頑張って書いていきたいと思います

感想待ってます♪それでは次話で♪

3話・すれ違い？（前書き）

こんにちは

サブタイトルを編集させてもらいました

作中の間違い等を見つけたら報告してもらえると幸いです

それではどうぞ♪

3話・すれ違い？

―放課後―

才次「あれ？誰も居ない…」

才次と荒貴は只今音楽室に来ている。軽音部に入ろうと入部届を持って来てはいたが、音楽室には誰も居なかった様だ

才次「まいったな…この学校に軽音部って無いのかよ？」

荒貴「マジで誰も居ないけどどうするよ？」

才次「無いなら仕方ないって言いたいトコだけど…マジで無いのか？」

荒貴「聞いた話しによると、昔の桜高軽音部の文化祭ライブって有名だったらしいからな…あるとは思うよ」

才次「そうなのか？だったら他の教室探してみるか…」スタスタ

荒貴「わっかりました～♪」スタスタ

そう言った後、才次と荒貴の二人は音楽室を後にする

―――――――――――――――

才次と荒貴が音楽室を出て行ってから5分後、音楽室に律と澪が入った。律は椅子に座り、澪は律にから少し離れた所に立っている

澪「…で、これからどうするの？」

律「入部希望者を待つ！」

澪「待つの…？」

律「待つ！」

澪「……」

律が待つと言ってからしばらく経つが、人が来る気配は全くない

澪「帰ろっか…」

と澪が言った直後にドアが開く音がした

生徒「あの～見学したいんですけど…」

律「おおっ！」

そう叫んだ後、律はその生徒に向かって走り出す

律「軽音部の！？」

生徒「いえ…合唱部の…」

律「軽音部に入りませんか！？」

生徒「あの、合唱部に…」

律「いま部員が少なくて…」

生徒「ぇ…」

律「お願いします！後悔はさせませ…うわっ！？」ムンズ

強引な勧誘をしている律を澪が止める

澪「そんな強引な勧誘したら迷惑だろ！」

律「ぁぅぁぅ…」

澪「まったく…じゃあ私も行くから…」

律「澪！！」

その声を聞いた澪は足を止める

律「あの時の約束は…嘘だったのか！？」

そう叫んだ後も律は続ける

律「あたしがドラムで…澪がベースで…ずっと一緒にバンド組もうねって…約束してたじゃない！…二人でライブに行った…あの日…」

――――――――――――

律と澪はあるバンドのライブに来ていた。沢山の観客がいる中で二人は言った

澪『これだ…！』

律『これ…だよね…！』

そして二人は固い約束を交わした…いつか一緒にバンドを組もうと…

――――――――――――

律「あの時の言葉は嘘だったのかぁ！？」

澪「その回想が嘘だ」

律「あれっ？そうだっけ？」

――――――――――――

律の家に遊びに来た澪は、律と一緒にテレビであるバンドのライブを観ていた

律『コレだよコレ！バンドやろうよっ！バンド～♪』

澪『……』

――――――――――――

澪「って律が強引に…」

律「澪もやるって言ったじゃん！それで、プロになったらギャラは7：3ねって♪」

澪「捏造すんな！」ズビシ

律「あだっ」

生徒「…ふふっ、ふふふっ…」

律澪「？」

金髪の女子が二人のやりとりを見て微笑む

生徒「なんだか楽しそうですね♪キーボード位しか出来ませんけど私で良ければ入部させて下さい♪」

律「やったー！ありがとー！これであと一人入部すれば…」

澪「私ももう人数に入ってるんだ…」

律「えっと…名前は？」

紬「琴吹（ことぶき）　紬（つむぎ）です♪」

律「ドラムの田井中律。こっちはベースの秋山澪！…じゃあ後は…ギターだな！」

―――――――――――――

唯と和は只今帰宅中である

和「唯、部活何入るか決まったの？」

唯「うん！軽音部に入ることにしたんだ～♪」

和「そうなんだ…なんで軽音部なの？」

唯「先生が軽い音楽って言ってたから、私にも出来るんじゃないかなって思って…」

和「そうなの…って入部届は？今日出せば良かったのに」

唯「今日は家でゴロゴロしてたいから明日出すんだ」ニカッ

和「ああ、そう…（なんていい加減な…）」

唯「今日のご飯は何かな～♪」

―――――――――――――

―才次達帰路―

才次「結局、軽音部らしき部活はナシか…」

荒貴「まあまあはるみちゃん、たまたま休みだったのかも知れない

し…」

才次「はるみちゃん言うな！…この新歓の時期に部活休みなんてあると思うか？」

荒貴「あ」

才次「あ、じゃねーよ。まったく…まぁあんまやる気の無い部活なのかね……」

荒貴「それはそれで困るだろ…」

才次「ま、ギター弾ければそれでいいや」

荒貴「ああ、そうなんスか…（なんていい加減な…）」

才次「晩飯何にしようかな…」

3話・すれ違い？（後書き）

いかがでしたか？

もう3話になるのにまだ主人公が入部してないという…

次話で入部させる予定です…

多分ですけど…（笑）

それではまた次話で♪

4話・入部！（前書き）

こんにちは不死鳥の羽です

もしかしたらこれから書くペースが落ちるかもしれません…

しかし少しずつでもしっかり書いていきたいと思います！よろしくお願いします！

それではどうぞ！

4話・入部！

―次の日の昼休み―

律と澪と紬はあと一人の部員をどう確保するか考えていた

律「さて、誕生まであと部員一人となった我が軽音部…そのあと一人をどう確保するか…二人共意見を出してくれ！」

澪「出せって言われてもな……ムギはなんかいい考えある？」

紬「う～ん、入部すれば何か付いてくるとか…かしら？」

澪「例えば？」

紬「別荘とか、車とか…」

律「さすがにそれは……宿題をやってあげるとかはどう？」

澪「その宿題は誰がやるんだ？」

律「それはぁーやっぱり澪さんが…」

澪「だと思った…。でも入れるならやる気のある人に入って欲しいよなぁ…」

紬「だったら地道に勧誘した方がいいんじゃないかしら？」

律「う～ん…」

ガラッ

律達がそんな事を考えている最中、先生が教室に入って来た

先生「あ、田井中さん！」

律「どうしたんですか先生？」

先生「じつは軽音部に入りたい人がいてね……ホラ、入部届も」ピラッ

そう言って先生は紙を渡す

律「うおー！やったー！」

澪「本当か！？」

紬「どんな人なの？」

律「えっと、一年三組　平沢唯、動機は『高校生になったら何かを始めたいと考えていたのでおもしろそうなこの部活を選びました』…だって！」

澪「よかったな！」

紬「これで廃部は無くなったわね♪」

律「よっし！放課後が楽しみだな～！」

―――――――――――――――

―その頃、一年三組―

荒貴「はるみちゃん、今日の放課後も軽音部探すのかい？」

才次「軽音部探す前に、お前の死に場所を探してやろうか？」

荒貴「冗談ですよじょーだん。で、どうすんの？」

才次「もうダルいからいいや」

荒貴「いいのか？」

才次「ああ。探すのダルいし、先生に聞くのもダルいし、何より眠いし…」

荒貴「どんだけ面倒くさいの嫌いなんだよ…」

才次「うっせ。学校終わったらギターのメンテ出してくるわ」

荒貴「自分でしないのか？」

才次「俺がなんて言うか分かるよな？」

荒貴「面倒くさいですね？」

才次「正解。あと晩飯の買い物がある。じゃあ俺は帰るまで寝るからさ、ＨＲ終わったら起こしてくれ」

荒貴「お前午前中ずっと寝てたよな？」

才次「……ｚｚｚ」

荒貴「はえぇよ！」

――――――――――――――――

―放課後、音楽室―

唯「はじめまして平沢唯です！これからよろしくお願いします！」

律「私は部長の田井中律！」

澪「私は秋山澪だ」

紬「琴吹紬です♪よろしくね♪」

唯「よろしく～！あっ、軽音部って具体的に何すればいいのかな？」

律「そりゃあ、練習したり、ライブしたり…」

唯「ライブかぁ～。カスタネットとかでも大丈夫かな？」

律澪紬「えっ！？」

唯「？」

澪「…唯って軽音部の事をどう思ってたの…？」

唯「う～ん、軽い音楽って書くからカスタネットとかマラカスとかそういう感じなものだと思ってたんだけど…違うの？」

律「うん……軽音部はギターとかドラムとかでバンド組んで演奏する部活なんだけど……そして唯にはギターをやって貰いたいんだけど…」

唯「えぇっ！？私ギターなんて弾けないよ！？」

澪「大丈夫だよ。分かる所なら私達も教えるし…」

紬「だれでも最初は初心者なんだから大丈夫よ♪」ニコッ

唯「そうかな…？私でもできるかな？」

律「できるって！」

澪「大丈夫だよ！」

紬「何事も挑戦よ！」

唯「……よし、私頑張る！やるぞぉー！」

律「よし！唯の決心もついた所で、唯のギターを選びに行こうぜ！」

唯「あ、そっか。ギターって何円位するのかな？」

澪「安いのは一万円代くらいだけど…あんまり安すぎるのもよくないから五万円くらいが丁度いいかも」

唯「えぇっ！？私のお小遣い１０ヶ月分！？」

律「どのくらいで買えると思ってたんだ？」

唯「……五千円…」

律「あらら……まあ、まずは見に行こうぜ？見ないと何買うか決まらないし」

澪「そうだな」

紬「ええ、行きましょう♪」

唯「そうだね！まずは見に行こう！」

その後唯達は唯のギターを選ぶために楽器店に向かった

――――――――――――――――

才次はギターのメンテナンスのために１０ＧＩＡという楽器店にいた。

才次「よし、ギターは出してきたし、暇つぶしになんか見てるとするか…」

才次（…しかし軽音部が無いとなるとやっぱ家で練習するしかないか……まあ、休日とかはスタジオとかで弾かせてもらえばいっか）

才次「さて、なんか珍しいモンはないもんかね…っと、なんだこのチューナー？やたらメカメカしいな…」

といった具合で店内を物色する事しばらく……

店員「お客様、メンテナンスが終わりましたのでギターをお返しします。代金は五千円となります」

才次「おっ、どうもっス。いつもスミマセンね」

店員「いえいえ、いつもこの店をご利用してくださってありがとうございます！」

才次「どーいたしまして…はい五千円」ピラッ

店員「五千円丁度お預かりします。ありがとうございました～」

才次「さて、あとは夕飯の買い物でもして帰るとすっか…あ～めんどくせ…」

才次が帰ろうとすると、ある少女が才次に話しかける

「あの～ちょっといいかな？」

才次「はい？」

――――――――――――――――――――

唯達は下校後、唯の買うギターを選ぶため１０ＧＩＡにいた

唯「ここが楽器店かぁ～」

律「ここ品揃え結構いいんだよな～」

紬「ふふっ、どういたしまして♪」

澪「？」

唯「ギターはどこかな～」

澪「ああ、ギターならこっちにあるよ」

唯「本当？…ってすごいいっぱいある！」

律「本当に沢山あるな～。これなら唯が気に入るギターが一つくらいはあるんじゃない？」

唯「よしっ、じゃあ探してみるよ！…あっ、これかわいい！」

律澪紬（かわいい！？）

唯「……」ジーッ

唯はギブソンレスポールを見つめている！

澪「それがいいの？」

唯「……」コクリ

律「それ２５万もするぞ？」

唯「あっ、ホントだ…さすがにこれは手が出ないや……」

紬「それがいいの？」

唯「うん…」

律「…よし、みんなでバイトしようぜ！」

唯「ええっ！？そんな、悪いよ！」

律「これも軽音部の活動と思えばいいんだよ！」

唯「でも…」

律「大丈夫だって！」

唯「…ありがとう」

律「よし！じゃあ今日は帰るとするか！」

澪「そうだな……ん…？」

律「どうした澪？」

澪「ねぇ、あれってウチの制服だよね？」

澪が指を指した方向には桜高の制服を着てギターケースを背負っている少年――春御才次がいた

律「たしかに男子の制服だけど…ってあれ？ギター背負ってるって事はギターやってるのかな？」

澪「まぁそうだろうな…」

律「男子って事は一年か…ならばやるべき事はただ一つ！」

澪「え？…っておい律！」

澪が言い終わらない内に律は動きだしていた

律「あの～ちょっといいかな？」

才次「はい？なんですか？別に万引きとかはしてないけど」

律「いや、そうじゃなくて…君桜高だよね？軽音部入らない？」

才次「へ？軽音部？」

律「ギター背負ってるって事はギターやってるんだよね？どうかな…？」

才次「（軽音部あったのか…）まあ、いいけど」

澪（あっさり！？）

律「よし！これで五人目だ～！やった～！」

唯「やったねりっちゃ～ん！」

澪「二人とも店の中では静かに！」

紬「うふふ♪」

才次「…ってまだ五人しかいないのか？」

律「うん、そうだけど」

才次「ということは最近まで軽音部って無かったのか？」

律「そうだよ！そしてその廃部の危機が迫っていた軽音部を救ったのが…この部長にして救世主の田井中り…いてっ！」ゴツン

調子に乗る律に澪が拳骨を喰らわせる。律の頭にはたんこぶが出来ていた

澪「偉そうに言うな！」

律「いてて…冗談だよ～」

才次「（たんこぶが出来るほどの拳骨とは恐ろしい女子だ…）コレが部長とは…先が心配だ…」

律「コレとはなんだ！コレとは！」

唯「あはは～♪あ、そういえば君って春御くんだよね？同じクラスの？」

才次「？そうなのか？」

唯「あれ、知らないの？」

才次「まあ、学校ではほとんど寝てるから…」

唯「あはは♪あ、みんな紹介するね、この人は…」

才次「いや、自分でできます…っつーか紹介できるほど俺の事知らないですよね？」

唯「あ、そーだった…えへへ♪」

才次「（天然か…？）えっと、俺の名前は春御才次。パートはギターっす。よろしく」

律「私は部長の田井中律、パートはドラムだ、よろしく！」

紬「琴吹紬です♪パートはキーボードです、よろしく♪」

澪「秋山澪です……パートはベース…です／／」

唯「平沢唯ですっ！パートはギター……をする予定です！精一杯頑張ります！」

才次「へぇ、ギター始めんのか？」

唯「うん、今日はギターを探しに来たんだけど欲しいのが高くって…今度みんなでバイトするんだよ」

才次「バイトするのか…値切ってもらったりしてみたのか？」

唯「してないけど…でも２５万円もするんだよ？」

才次「素人がそんなに高額な物選ぶとは…」

紬「あの、値切るって何ですか？」

紬が質問する。彼女はお嬢様育ちなので値切るという言葉を知らないらしい

律「ふふふ…欲しいものを手に入れる為に努力と根性で負けさせる事だよ！」

澪「そんなかっこいいものじゃ無いだろ…」

紬「凄いですね！なんか憧れます！」

澪「憧れる要素がどこに！？」

意外な言葉に澪は驚く。まあ無理もない

紬「あ、ちょっと待ってて？」テクテク

紬はそう言ってどこかへ行ってしまった

律「？どこ行くんだろ？」

才次「さあ？」

――――――――――――――――

紬が才次達から別れた後、彼女はレジにいる店員に話しかけていた

紬「あの～すみませ～ん？」

店員「はい？」

紬「値切ってもいいですか？」

店員「はぁ…？」

早速、先程覚えた知識を実践してみる紬

紬「ギターのお値段、負けてもらえないでしょうか？」

店員「う～ん……ん？」

店員は独特な形をした紬の眉毛に注目する

店員「……はっ！あなたは社長の娘さん！？」

紬「♪」ニコニコ

店員は急いで電卓を取り出して打ち始める

店員「ではこんなもので…」

その電卓が打ち出した数字は『１７０００００』、つまり十七万円という事だろう。しかし紬は…

紬「もうひとこえ～♪」

と言う。まだまだ値切らせるらしい……

交渉が終わる頃には、店員は半分涙目になっていた

――――――――――――――――

紬「お待たせ～♪」

律「なにしてたの？」

紬「このギター、五万円で売ってくれるって♪」

律「えええ！？」

澪「なんで！？」

才次「買う買う買います！買わせてください！」

律「お前が買うんじゃないんだよ！」ズビシ

才次「冗談です」

唯「何！？何やったの！？」

と驚く四人。一人は驚いてるのかボケてるのか分からないが

紬「このお店、実はウチの系列のお店で…」

唯「え！？そうなんだ～…ムギちゃんありがとう、残りはちゃんと返すから…あ、でも五万円も今ないや…」

紬「そうなの？じゃあちょっと待ってて♪」

才次「もうやめておいたほうがいいですよ！？さすがに店員さん泣きますよ！？」

律「じゃあバイトするか！」

澪「ええ！？結局するの？」

律「稼ぐべきお金が二十万も減ったんだ！これならすぐ集まるよ！」

澪「そうだけど…」

やはり澪はバイトするのに抵抗があるようだ

才次「え？なに？バイトするのか？」

律「あれ、聞いてなかった？」

才次「初耳なんですが」

律「…めんどくさいとか言わないよね♪」

才次「はァ…わかった、やりますよ…」

律「よし！」

才次「じゃあもう一人誘ってみる」

律「軽音部じゃない人に手伝ってもらってもいいの？」

才次「多分いいだろ」

律「そっか！ならいいや」

澪「そんなに簡単に他人を巻き込んでいいのか…」

律「いいって言ってるからいいの！」

澪「まったく…」

律「よ～し、それじゃ明日は部室で会議だ！必ず来るように！」

唯「みんなありがとう！」

澪「仕方ない、頑張るか！」

紬「頑張りましょう♪」

才次「部活の活動でバイトするなんて聞いた事無いわ……まあやるとしますか…」

こうして入部早々バイトする事になってしまった才次。正直面倒くさいという思いを胸にしまって、無事に目標額の五万円を手に入れる事ができるのか？

つづく！

4話・入部！（後書き）

今回はいつもより多めに書いてみました

やはり小説を書く事は楽しいけど難しいです…

オリキャラ主人公の二次創作では、原作と同じような展開になってしまう事があるので、所々原作と異なるやり取りなどを入れていきたいと思います

感想待ってます

それでは次話で！

5話・会議！（前書き）

お久しぶりです

春休みも終わり、新たなクラスでの生活にも慣れてきた不死鳥の羽です

前回の投稿から結構な間隔が開いてしまいました…

けけけ、決してネタが尽きたのではございませんのよ！？ただ部活やら勉強やらで忙しくて…

もしかしたら次の投稿も間隔が開いてしまうかもしれません。出来るだけそうならない様に努力はします

話は変わりますがけいおん！第二期の『けいおん！！』がついに始まりました！

…と言っても自分の地域は２０日からなんですが…（今現在４月１７日）あと３日の辛抱です！

それではどうぞ！

5話・会議！

―次の日―

荒貴「え？軽音部入ったのか？」

才次「ああ、昨日軽音部員に偶然会ってな」

荒貴「よかったじゃん。で、話ってなんだい？」

才次「実は…」

バイトするまでの経緯を説明する才次。

荒貴「…なるほどね、そういう訳でこの僕に手伝ってほしいと？」

才次「そういう訳です」

荒貴「却下します」

才次「何故ですか」

荒貴「僕に得が無いからです」

才次「得ならあります。いい汗かけますよ」

荒貴「いい汗かいて金が貰えるんならな？稼いだ金は結局他人に全部渡しちゃうんだろ？…てかお前正直面倒くさいと思ってるだろ」

才次「ぐっ！…お前って損得で物事を決めるような奴だっけ？」

荒貴「いや、それって金が貰えないのに働かされるのと一緒じゃん？それわかっててやる奴なんていないと思うぜ？」

才次「嫌な言い方すんなよ……仕方ねぇ、わかったよ。お前には頼らねぇ」

荒貴「ごめんなさいね♪…で、そのギター買う人ってどんな人なんだ？」

才次「平沢だよ、同じクラスの」

と言って唯のいる方を指差す才次。それに気づいた唯は手を振って挨拶する

荒貴「……」

才次「どうした？」

荒貴「……なぁ」

才次「？」

荒貴「ちなみに他の部員はどんな人たちなのですか？」

才次「どんなって…全員女子だけど」

荒貴「…その人達はカワイイのですか？」

才次「…？まぁ可愛いんじゃない？」

その事を聞いた荒貴は、少し考えた後に叫んだ

荒貴「…いいねいいねぇ！最っ高だねェ！お前だけハーレムなんてのは許さねぇ、俺にもバイトやらせろぉ！」

才次「はぁ？」

こうして荒貴もバイトする事に決まった

―――――――――――――――――――――

―放課後―

澪「唯ってなんであのギターを選んだの？」

唯「それはかわいいからに決まってるよ～♪」

澪「かわいい…から？」

唯「うん！」

澪（唯の感覚はよくわからない…）

才次「ちわーっす」

荒貴「こんちはー」

唯「あ！春御くんと河切くん！おいーっす！」

澪「あ、こんにちは…」

才次「おっす平沢、秋山」

荒貴「おいっす平沢さん！…そして彼女は？」

澪「えっ！？／／」

唯「この子は秋山澪ちゃん！ベースやってるんだよ！」

荒貴「へぇ、ベースやってるんだ？俺は河切荒貴。よろしく♪」

澪「よ、よろしく…／／」

荒貴「ん？恥ずかしがってるのかい？カワイイなぁ…ぐふぅ！？」

ドカッ

荒貴の後頭部にストレートを噛ます才次

才次「秋山をあまり困らせるなアホ！」

荒貴「いっつ…すんません秋山さん…」

澪「はぁ…？」

そんなやり取りをしてる最中に律と紬が入ってきた

紬「こんにちは～」

律「おっす！みんな集まってるか？」

唯「二人ともおいっす！」

澪「部長が遅れていいのか～？」

才次「おっす琴吹と部長」

律「ごめんごめん～♪おっ！君がバイト手伝ってくれる人？」

荒貴「イエス！河切荒貴といいます！よろしく！」

紬「よろしく～♪」

律「よろしく！あのさ、よければ軽音部に入らない？」

荒貴「あ～悪いけどそれは無理かな、音楽は苦手だから…ゴメンね？」

律「そっか…なら仕方ないな～。…よし、全員そろったことだし…」

才次「おっ、始めるのか？」

律「改めて自己紹介をしよっか！」

才次「昨日しなかったっけ？」

律「いやあまだ私達お互いの事よく知らないからさ？」

才次「まあいいや、俺お前の名前忘れてたし」

律「忘れてたのかよ！私もだけど」

才次「お前もかよ！」

律「じゃあ始めようか！まずは私、部長の田井中律です！特技は声真似！律って呼んでくれ！」

唯「平沢唯です！好きなことはゴロゴロすることです！唯って呼んでください！」

紬「琴吹紬です♪小さい頃ピアノを習ってました♪ムギって呼んでくれると嬉しいです！」

律「さあ、次は澪だぞ～？」

澪「え？あ、ベースの秋山澪です…／／よろしくお願いします…／／」

律「（澪声で）私の事は澪って呼んでください！」

澪「おい律ぅ！」

唯「おお～！」

紬「すごい似てたわ！」

荒貴「すげー！」

才次「違和感無かったな～」

荒貴「じゃあ次は俺だな！俺は河切荒貴！趣味はスポーツとそこの春御くんをおちょくる事！荒貴って呼んでください！」

才次「おい！二つ目の趣味はなんなんですか！？」

荒貴「え～？人の趣味に文句つけてんのかい？まったく…ほら次は君の番だよ？」

才次「はァ、なんだそれ！？…ったく、春御才次です、ギターやってま～す…呼び方はてきとーで」

律「春御だからえっとじゃあ…アダ名ははるみちゃんでけっｔ

才次「その呼び方はやめろぉ！！！」

才次が吼えた。荒貴は必死に笑いをこらえている

律「ええっ？なんで？」

才次「なんでじゃねぇ！なんでもだ！とにかくそのアダ名で呼ぶな！」

律「わかったわかった！じゃあ春でいい？」

才次「…まあそれならいいや」

唯「じゃあ春くんで決定だね！」

荒貴「…チッ」

才次「残念でした♪」

荒貴「うっせ！」

律「よし、そろそろ会議始めようか！じゃあどのバイトにするかみんな意見を出してくれ！」バサッ

律は求人誌をみんなに配る

唯「なんのバイトがいいかな～？」

律「ティッシュを配るのは？」

澪「……（ティッシュ受け取って貰えなかったらどうしよう…）む、無理…」

紬「ファーストフードのお店はどうですか？」

澪「……（ちゃんと接客できなかったら…）無理かも…」

荒貴「メイド喫茶とかは！？」

澪「絶対無理！」

荒貴「そっか～似合うと思ったんだけどな～」

才次「テメェの趣味で選ぶな！」

澪「うぅ…」

律「そっか、澪にはハードル高いかもね…」

澪「…（恐い人が出てきたらと思うと玄関のベルが押せない…オーダーが聞きにいけない…）ううっ…」ボンッ

澪は頭から煙が出るほどパニックになっていた

唯「ごめんね！？無理しなくていいから…」

澪（…やる前から無理だとかダメだとかばかり言ってる…唯のギターを買うため　なのに、それは軽音部のためでもある…乗り越えないと…自分を！）

澪「私…なんでもやるよ！」

律「（よく言ったぞ澪！）…あ！」

澪「なっなに！？」

律「これなんてどう？交通量調査だって！」

唯「どんな事するの？」

律「歩いてる人や車の数をカウンターで数えるんだよ。これなら澪もできるっしょ？」

紬「ホントですね！」

澪「うん…！」

律「よし、決定だな！賛成の人ー！」

唯紬澪荒「はーい！」

才次「……」

律「あれ、春は？嫌なの？」

才次「いやいいけどさ…なんつーか、交通量調査って退屈しそうだな～って思って…」

律「まぁしょうがないじゃん？そういう仕事なんだし」

才次「ゲーム持ってっていいですか？」

律「お、いいな！私も持っていこー！」

澪「おいおい、いいのか？」

律「いいんだよ暇な時にすれば！」

澪「まったく…」

律「よーし、バイトも決まった事だし頑張るぞ～！」

「お～～～！！！」

才次「…ぉー」

5話・会議！（後書き）

いかがでしたか？

もうすでにお気に入り登録している人がいる様で嬉しいです！

次回はいよいよバイトです。近い内にキャラ紹介などをしたいと思ってます

自分は全く音楽の用語や機材が全く分からないド素人なので、暇があればそっちの勉強もしてみたいと思います

最後に皆さんお身体に気をつけてください

それではまた次話で！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2364k/

けいおん！～ＩＦ～

2010年10月11日22時50分発行